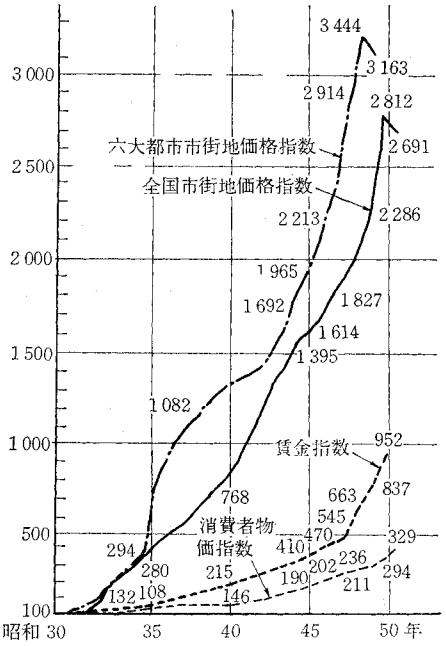
数でみる土木 22

住宅(おうち)がだんだん遠くなる

庶民のささやかな夢であるマイホームも，段々と手のとどかないところへいってしまったようだ．

図-1は地価と関連指標の推移を見たものであるが，地価の上昇は20年で30倍と他の指標(3～9倍)に比べて問題にならないほど大きいことが分る．昭和40年代の後半には地価はやや上昇の鈍化する傾向がみられるが，うまく抑えることができるであろうか．

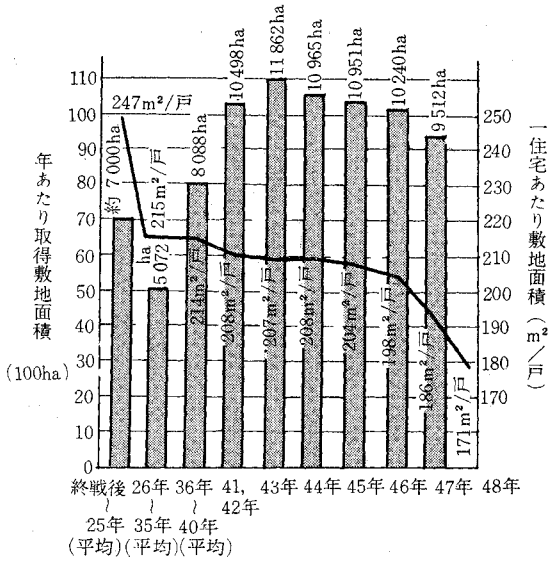


注：① 総理府「消費者物価指数」，労働省「労働統計年報」，日本不動産研究所「全国市街地価格指数」による．
② 「建設白書」による．

図-1　地価と関連指標の推移（昭和30年　100）

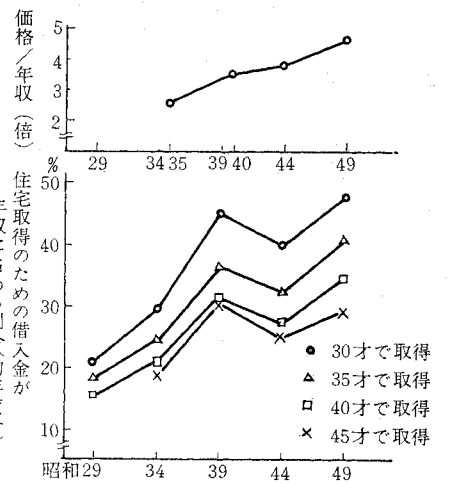
一方，**図-2**には1住宅あたりの敷地面積の推移が示されているが，年々減少の傾向をたどっており，これは必然的に日照阻害や騒音などの問題を多発させる遠因になっているのではなかろうか．

図-3は，ある年にある年令の人が持ち家を取得したときに，そのための借入金の返済が年収のどれだけを占めるかを示したものである．読み方はそれぞれ工夫されたい．



注：① 住宅統計調査(総理府)，による．
② 昭和48年あたり取得敷地面積については，調査が1～9月であるので示さない．

図-2　一戸建，長屋建の持家における取得時期別敷地面積，1住宅あたり敷地面積（全国）



注：① 首都圏において敷地110m²，平面積55m²の木造住宅（土地付き）を購入するとして，資金は自己資金（貯蓄）と住宅金融公庫借入金によるものとし，不足分を民間金融機関より借入れるものとした．
② 1975年国民生活白書，より作成．

図-3　住宅の価格と年収，借入金